

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・前年度も学校教育目標に「学ぶ楽しさの追求」を掲げ、本校の重点目標である①職員の資質向上②基礎学力の定着③教育環境の充実をもとに評価項目、取組内容、成果指標について検討を行い取組を進めた。すべての項目について最終評価、学校関係者評価とも「十分達成できている」との達成度であり、総合評価も「A:十分達成できている」である。 ・今年度より本校では島留学制度がはじまり、福岡県より4名の児童を置け入れている。児童数が増えることで、児童の実態・特質に応じた指導の工夫やコミュニケーション能力を育てる指導の工夫について取組を工夫していく必要がある。 ・GIGAスクール構想が前倒しで実施されることが決まったことで、今年度はICT環境の更なる充実が進むと考えられる。職員の研修を進め、児童の活用が円滑に進むよう計画し取組んでいきたい。
------------------	---

2 学校教育目標	学ぶ楽しさの追求
----------	----------

3 本年度の重点目標	1 サービスラーニング（SL）の推進 2 活用力の育成 3 教育環境の効果的な利用
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
重点取組			中間評価			最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教師間でマイプランを共有するとともに、校内研修で取り組んだり、学期ごとに内容の情報交換を行う。							麻生
	○活用力の育成	○朝のスキルタイム90%以上実施。	・読んだり書いたりする活動で条件をつけることで、速読や条件に合わせた作文が書けるようにする。 ・算数の活用問題を1学期間に2回以上実施する。							麻生
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学期に1回、人権・同和教育の視点で道徳教育に取り組む。 ○学期に1回、「心のアンケート」を実施して肯定的な回答の児童を80%以上にする。	・人権・同和教育の参考資料を基にして、各学年で指導を行う。 ・心のアンケートの中で自分が頑張っている事やできるようになった事を記述する欄を設ける。 ・保護者や地域の方々と連携した体験活動を実施する。							麻生
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学活の時間を活用して担任と児童の個人面談を行い、気になることや悩み等を聞く。	・児童から得た情報を基に、月1回の児童支援委員会で情報共有を行い、全職員で問題解決を図る。							麻生
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成 ①運動習慣 ②食習慣 ③病気・ケガの予防	●積極的に体を動かそうとしている児童を80%以上にする。 ●「健康に食事は大切である」と考える児童70%以上 ○自分の身体に関心を持ち、健康を維持していけるような知識を身につけさせる。	・週に1度は20分休みに、ジョギングや縄跳び等の運動に取り組む時間を設け、全校で体づくりに取り組む。 ・週に1度は全校レクの時間を設け、体を動かして遊ぶ楽しさを実感できるようにする。 ・食に関する意識調査の実施(栄養のバランス)給食時間のミニ指導(好き嫌い、旬の食べ物、栄養、マナーほか)、給食だよりの発行 ・学期に一度の発育測定。学校三師による保健指導。保健だよりの発行。							古館 吉本
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・船便変更日以外定時退勤を遵守する。							島津

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
重点取組			中間評価			最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
◎志を高める教育	○地域の未来について考え、課題解決に取り組む児童の育成	○年間5回以上、地域の人達と共に体験活動や地域と関連した行事に取り組む。	・体験活動や地域と連携した行事と教科等を関連させ、地域へ貢献できる機会を設定する。 ・地域のひと・こと・ものに触れさせることで、これからの自分にできることを考えさせていく。							宮崎
○教育環境の効果的な利用	○すべての教育活動での宝当プラン(ICT活用教育計画)の推進	○週に一回以上、タブレット等のICT機器を利用する児童を70%以上にする。	・授業の中で、週に1度はICT機器を活用できるようにし、児童がICT機器に親しみ、そのよさを実感できるようにする。 ・ICT機器の活用法を共有できるよう、年に1度職員研修を行う。							古館

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	-------------